



新町70周年記念

写真で振り返る 白い森の国おぐに No.10



⑩木出しの様子（昭和35年3月）

木材が主な燃料であった昭和30年代頃は、切り出した木材をソリに載せ、残雪の上を滑らせて運ぶ「木出し」がどの地域でも行われていました。切り出した木材は、集落の各家庭に分配し、次の冬を暖かく過ごすための燃料になりました。

川沿いの地域では、切り出した木材を夏頃まで保管し、川や用水路に流して各家庭に運ぶこともあったそうです。

木材が燃料として使われなくなるにつれ、大勢で木を切り出して運ぶ光景は見られなくなりました。